

平成30年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

平成31年4月30日

札幌青葉鍼灸柔整専門学校

教育目標と本年度の重点目標の評価

重点目標・計画の達成状況	課題と解決策
<p>スポーツ外傷や介護の分野で鍼灸師および柔道整復師が活躍できるように、正しい身体動作のしくみや使い方の理解と実践、身体コンディショニング、それぞれの領域の現状認識および必要な介護技術の修得を積極的に行っている。</p>	<p>臨床実習先の確保ならびに要件整備。 学生への意識付けとして、卒業生を中心とした臨床を踏まえた職業教育の充実に努める。さらに、スポーツや介護など多くの分野に貢献できる人材育成を目標としていく。</p>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、「医療従事者として必要な専門的知識・技能・態度（心）のすべてを身に付け、良質で安全な医療を提供することができる優れた高度専門職業人の育成」を目標に、平成 13 年に札幌青葉鍼灸専門学院（鍼灸学科）として開設した事に始まります。平成 14 年には北海道の認可を受け札幌青葉鍼灸柔道整復専門学校に改称しました。平成 16 年度に鍼灸学科夜間部、柔道整復学科夜間部、平成 18 年度には柔道整復学科昼間部を開設し、今日に至っています。</p> <p>本校は、徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成することを目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」の育成に努めています。</p> <p>これらの教育理念・目的・育成人材像については、本校の Web ページおよび学校案内等にて学内外に周知を行うことにより、学生および教職員に対し、学園の理念や精神等を常に意識し行動指針とすることを求めています。</p>	<p>本校は学校法人札幌青葉学園が運営し、本校以外に北海道歯科衛生士専門学校ならびに北海道看護専門学校を有することで、医療資格者や関係団体と密に連携をとり、医療現場や施術所経営の実務で求められている実践的な知識・技能をもった人材育成に努めています。</p> <p>また、今後社会のニーズが高まるであろう領域として、スポーツにかかるトラブル（怪我や不調）や介護・福祉の分野はもちろんのこと、健康維持・増進や予防医学分野にも着目し、それらの領域で必要とされる知識と技術も身につけた上で、優れた人間性を備え、新しい時代における業界のリーダーとなりうる人材の育成を目指しています。</p>

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営について、毎年度、学園全体として捉え、部門毎に事業計画書を作成し、理事会、評議員会の承認を得て、実施している。</p> <p>学校運営組織としては、毎月、全教職員が出席する教職員会議や、校長・学科長等で構成される校務運営会議を開催している。また、校内の情報伝達や情報共有はグループウェアを活用し、円滑な学校運営に必要な情報を共有し、各部門が業務に取り組んでいる。</p> <p>また、学生との連絡を円滑にする上でも、教務（教員）と事務（学生事務）の分掌によりその役割分担を明確にし、遅滞や不備のない体制を構築している。</p>	<p>国家試験対策委員会や認定実技試験委員会等の組織が構築されていないことから、これらの組織を設置することにより、国家資格取得に向けた教育態勢を強化する必要がある。</p> <p>事務室及び広報室と職員室（教務）ではフロアが別となっており、情報の共有や伝達速度等に問題があったことから、グループセッションによる伝達、電子メールを中心とするグループウェアを導入、教員と広報による広報委員会を開催することにより情報共有における時間ロスや伝達ミスが改善傾向にある。さらに広報委員会等を設けることで、メールのみのやりとりだけでなく、活発な意見交換をすることが可能となった。</p>

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>全体目標として教務会および各学科が示す教育指針と毎年の目標を定め、医療を学ぶ姿勢や医療を学ぶ学生としての身だしなみ、言葉遣い等の躰教育も行っており業界のニーズに応える社会人教育を行っている。</p> <p>鍼灸学科、柔道整復学科、ともに、基礎および専門基礎分野の担当者の意見を取り入れ、全教員に対する意思統一を持って取り組む。これは各担当の年間教育にとどまらず3年間での専門教育の達成を目指している。</p> <p>カリキュラムに関しては、「あん摩マッサージ指圧師、はり師およびきゅう師に関する法律施行令」、「柔道整復師法施行令」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師、およびきゅう師に係る学校養成施設認定規則」、「柔道整復師学校養成施設指定規則」に基づき指定単位数以上の単位取得をさせている。</p> <p>また、各業界の動向を毎年度確認し、時流に沿った教育目標を定めるとともにシラバスも随時年度前に作成して、学生への学習意欲向上と実践的な知識と技術が融合して将来の臨床現場で知恵を働かすことができる応用力のある学生を育てることを目標としている。</p> <p>鍼灸学科では、基礎医学としての西洋医学を十分に学び、そこに東洋医学の知識、技術を積み上げる。西洋医学的な治療法だけでは対応できない患者を、東洋医学のみに偏らず西洋医学の医療機関と協力して鍼灸治療が実践できるように、信頼される鍼灸師になる教育を目指す。</p> <p>柔道整復学科では、柔道整復師に課せられた国民からの期待と義務を根幹として日本古来の柔道整復術に西洋医学の理論を融合させた臨床力と患者に対する適切なインフォームドが確実にける信頼される医療人教育を目指す。</p> <p>両科とも、国家試験合格率 100%を目標とし国家試験対策委員会により、模擬試験、実力試験等を実施再検討し学生の学習習熟度を考察している。</p>	<p>各施行令、学校養成施設認定規則等の資格取得指定単位以外にも、本校独自の自由選択ゼミを設け、正規授業では賄いきれない実践的な知識や技術を伝授する機会を与えている。</p> <p>また今後は、業界団体および外部企業等からの講師を招聘し、より広い分野の知識や技術を伝授する機会を与えていく。平成 30 年度は卒業生を中心に、学校教育とは違う臨床現場の実際を教授することが可能となったが、1度や2度の講義で終了してしまったことから、来年度は定期的かつ計画的に外部講師による講義をしていく必要がある。</p>

<成績評価・単位認定について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	筆記試験・実技試験により成績評価を行っている。一定の評価以上をもって、かつ規定の出席数を満たしている者が単位を認定される。	実技および実習に関する成績評価は、担当教員により多少のバラツキがあることから、教員間で一定の評価方法などを十分に打ち合わせすることが必要である。

<資格・免許の取得指導体制について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	指定規則に規定された以上の単位数がある。	入学時から難度化する資格試験に対応するための対策をする必要がある。
2) 資格・免許取得の指導体制はあるか	3年次は国家試験対策を行うとともに実技科目をより臨床的な内容にシフトし臨床応用問題解決能力を高めている。	3年生を中心に補習を組んでいるが、学力向上のためには、1年次から国家試験合格のためのビルドアップ教育の効率化が必要である。

<教員・教員組織について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 資格・要件を備えた教員を確保しているか	毎年、認定規則ならびに学則で定められた教員資格・要件を備えた教員を確保している。	鍼灸学科の教員が2名および柔道整復学科の教員1名退職してしまい、これに伴い新規採用を公募し、教員を補うことはできたが、今後は本校卒業生等を助手として雇い、教育現場を経験させ、教授できる訓練もしていく予定である。
2) 教員の資質向上への取組みを行っているか	研修制度等が設けられておらず、教員個人のキャリアアップだけではなく学生へのフィードバックできるものを検討している。	教員の資質向上のための研修制度を設ける必要がある。
3) 教員の組織体制を整備しているか	教職員連絡会における報告や連絡を行っている。	各分科組織を構築する必要がある。

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 30 年度（第 27 回）の国家試験は、鍼灸学科に関しては昼間部、夜間部ともに 100%の合格を達成することができた。柔道整復学科については、71.4%という結果であった。鍼灸国試の結果については、学生の人数が少なく、教員がすべての学生の面倒をみることができたこと、昨年よりも国試の内容が簡単であったこと等があげられる。柔道整復国試の結果については、休学から復学したもの、留年したことがある学生を中心に合格率が低かったのが合格率の低迷に繋がったのも一つの原因である。今後早急に原因を徹底的に分析し必要な方策をとる必要がある。</p> <p>また国試の問題および解答等を精査すると、特に国家試験科目の不得意科目に予想以上の点数の取りこぼしがあり、今後の授業および補習の内容を精査するなど、相当の分析をした上で、来年度の国試対策に望んでいく予定である。</p> <p>今回の結果から不合格者の精神的、内面的な学生支援も必要と考えているが、学校としてどこまで踏み込んで支援できるのかは今後の課題である。</p> <p>就職に関しては卒業時点の状況は十分に把握できているが、容易に転職可能な業界の特性上、卒業後の状況は情報収集が不十分である。効率的で確実な卒業後の情報収集の方法を模索中である。卒業生の大部分が業界で活躍していると思われるが、一部業界を離れた卒業生は把握できていない。</p>	<p>国家試験対策については、しっかりとした分析をせずに、教員が毎年同じことの繰り返しのように考えてしまい、授業および補習についても例年と同じ内容、方法で実施してしまっている傾向にあることから、早急に国家試験対策委員会を設置し、国家試験の内容、結果等の分析を行い、今後の対策方針を示して行く予定である。</p> <p>さらに学生の状況も毎年変化しており、対応策を講じていく必要がある。</p> <p>就職指導に関しては、柔道整復、鍼灸業団が多数存在し、それに加え業団未加入の個人開業者が増加した影響もあり、開業している施術所自体が把握しきれない状況である。</p> <p>そこに就職が決まってもその後の情報が収集しがたい業界の実情がある。</p> <p>また、昨今は介護福祉関係の企業から柔道整復師、鍼灸師として求人が増加している一方で、柔道整復師や鍼灸師が機能訓練指導員として、介護施設で働くことができるということを知らない施設も少なくない。介護福祉分野は柔道整復師、鍼灸師の業権拡大につながっていくことから、本校も積極的に介護福祉施設に就職等を働きかけ、卒業生により多くの就職選択肢が増えていくようにしていく予定である。</p>

<就職について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 就職率の向上が図られているか	就職相談担当に相談に来る学生に対しては、就職完了までマッチングに関する支援を継続して行っている。	相談に来ない学生も多いことから、積極的に就職等の指導をしていく必要がある。

<資格・免許の取得について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 資格・免許取得率の向上が図られているか	国家試験合格率は、鍼灸に関しては全国平均以上、柔道整復に関しては近年全国平均以下となっている。	近年は問題の難度化により全体の合格率が（とくに既卒生を中心に）低下傾向にある。合格率100%を目指すには、個別の指導体制を再考する必要がある。

<卒業生の社会的評価について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 卒業生の社会的評価を把握しているか	同窓会組織である青葉会と連携する機会が少なく、卒業生の状況、求人状況、独立開業状況の把握があまりできていない。さらに、この業界から去っていく卒業生も多くいる。	業界を離れていく卒業生の把握が極めて困難である。同窓会組織である青葉会と連携するだけでなく、卒業後のバックアップ体制の構築も必要である。

第 27 回国家試験の結果

(平成30年度新規卒業者)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	42	30	71.4%	86.1%
はり師国家試験	23	23	100%	93.1%
きゅう師国家試験	23	23	100%	94.2%

平成 30 年度卒業生の進路

(平成31年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業者数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復学科 昼間部	28	16	0	0	12
柔道整復学科 夜間部	18	7	0	2	9
鍼灸学科 昼間部	10	9	1	0	0
鍼灸学科 夜間部	13	11	3	0	0
合 計	69	43	4	2	21

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の特徴である「学生との距離が近い教職員と教育」においてもっとも重要視しているのが学生支援である。</p> <p>特に専門学校学生は高校新卒生から社会人経験者と年齢層も幅広く、人生経験もさまざまである。その学生たちが同じ環境で学ぶにはより多くの意見や要望を学生から拾い上げることが必要である。</p> <p>成績不振者、経済的困窮者には担任ではなく多くの教職員が情報を共有し、学生から相談しやすい環境を整備している。</p> <p>経済的支援に関しては学費分納制度や奨学金、教育ローンの紹介や説明を行い就学意欲が高いにも関わらず経済的に学費未納となり退学、除籍とならないように支援体制を準備している。また、入学試験の選抜方法により、試験の検定料や入学金の一部免除などによる特待生制度も導入している。</p> <p>就職支援に関しては求人票を学生の手に取りやすい2階職員室入り口廊下に設置し、いつでも閲覧可能となっている。さらに就職担当教員が学生、卒業生の就職先希望を汲み取り、また求人企業に対しては積極的に求人情報の収集に努めている。</p> <p>卒業生が柔道整復師、鍼灸師として資格取得で完結せず、将来にわたって取得した資格で社会貢献し、日本国民の健康維持と業界の発展の一躍を担うことが出来る医療人として卒業し、資格取得後にさらに希望に満ちた道を示し、導くことも学生支援の一つであり最終目標であると考えている。</p>	<p>クラス担任制度を導入しており、学生個人の学習や生活面の相談も受けている。</p> <p>同窓会組織である青葉会が講習会を開催しており、卒業年度が違う者同士の交流は卒後の情報収集の場となり、開業や就職情報を提供できる相互交流の場となっている。</p> <p>毎春実施される学生組織である学友会による「新入生歓迎会」を実施している。この学年や学科を越えた企画イベントは大変に盛況で、学生間および教職員とのコミュニケーションに一役を担っている。</p> <p>今後は、同窓会（青葉会）、学友会の組織と学校・教員間との交流も進めていく予定。</p>

<就職等進路について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	就職担当教員を中心として、施術所アルバイトや就職の相談にのってはいるが、就職担当以外の教員にも相談するケースが多くなってきている。外部の就職相談会には参加しているが、具体的な就職支援のための環境が整っていないのが現状である。	求人企業(施術所)の求人票を掲示するとともに、担当者が求人票をファイリングしたものを希望者に開示している。 日々刻々と変化する就職に関する情報を、今後はいかに希望者への情報提供をスムーズに実施するかが課題となっている。

<中途退学への対応>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 退学率の低減が図られているか	1年生で退学することが多い。学費の滞納、長期欠席、成績不振など様々な理由があり、教職員で会議を開き、対応策を検討中である。	学校から学生、保護者の連絡を頻繁に行う。友人などの相談する機会も重要であり、学生間のレクリエーション等の場を増やしていく予定。

<学生相談>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 学生相談に関する体制を整備しているか	担任のみならず教員間、事務職員との密接な連携により個別に対応しているが、十分ではない。 学生が個人的に教員へ相談することも多く、すべて把握しきれしていない。	学生間での人間関係のトラブルにどこまで介入すべきか否かが課題である。 とくにハラスメントに関しては現状認知と注意啓蒙を積極的に実践していく。
2) 留学生に対する相談体制を整備しているか	2020年度に文化教養課程である日本語学科を設置予定である。	留学生を迎え入れる上で、本校卒業後の進学および就職サポート体制を構築する必要がある。

<学生生活>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学費の分納や奨学金制度、を導入している。また、日本学生支援機構奨学金制度説明会や個別の学資ローン説明を行っている。	奨学金を貸与されている学生が年々増加している。奨学金を貸与されている認識に乏しい学生も増加傾向で説明会での理解を高める必要がある。
2) 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	新年度には全学生に健康診断を行っている。また、健康状況調査を実施し、学生一人一人の健康状態を把握している。さらに3年生にはインフルエンザ予防接種を実施している。	常に健康に不安のある学生が希望した場合には、個別で学校医ならびに養護教員が「健康相談」を随時実施している。
3) 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	遠方からの通学者が少ないため、学生寮は所有せず、数社の学生会館などに希望者を紹介するという支援にとどまっている。	
4) 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学友会（生徒会）を中心に、学生が主体となって活動している。その際、学生の要望に応じて活動を支援している。近年、部の活動が少ないのが現状である。	クラブは柔道部、トレーナー部、バスケット部を設置。その他のサークル活動希望も出ている。必要に応じて教員が担当を行っているが、学生の都合を考慮した運営に苦慮している。

<保護者等との連携について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 保護者との連携体制を構築しているか	学費未納者、不登校者、成績不良者については、保護者および連帯保証人との連携の上、学科長と担任を中心とした教職員が複数名で対応しているが十分とはいえない。	社会状況から家庭での保護者と学生との対話が少ない傾向がみられる。 とくにそのような学生は、就学状況を保護者が把握していないことがあり、問題が生じた場合の説明に苦慮している。 保護者への連絡を頻繁に行う必要がある。

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>設立当初の空調設備・照明機器・その他備品等の老朽化が進行しているため、とくに学習教育活動に密接に関連する設備・備品等について、教育環境の快適さの改善、教育効率の改善などを優先して、段階的計画的に更新していく必要がある。手洗いやトイレなど水回りの衛生環境、エアコン等において適切なメンテナンスによって維持管理していく。</p> <p>また、毎年 6 月には、全学生および教職員参加の避難訓練を実施し、安心・安全・快適な教育環境の提供を目指して改善・向上に注力していく。</p> <p>毎年 6 月上旬には、千歳 JAL 国際マラソンへボランティア活動に出かけ、選手のボディケアをおこなうことで、トレーナー業務におけるインターンシップを実施している。</p> <p>人体の構造を理解する環境の充実として、毎年 10 月には札幌医科大学における解剖実習見学を実施し、より学生が構造イメージできる環境を提供している。</p> <p>学内実習のみでは得られない教育環境があることから、今後の更なる学外実習の充実に必要な要件を整備していく。</p>	<p>サッカーなどプロスポーツ団体のみならず、民間のスポーツ団体ならびにスポーツ大会との連携を積極的に導入し、バリエーション豊富な教育環境を提供していく。</p> <p>毎年 3 月には救命救急活動の一環として普通救命講習会を実施している。</p>

<学外学習、インターンシップ等について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
<p>1) 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか</p>	<p>千歳 JAL 国際マラソンボランティアで、スポーツ選手のボディケアを行っている。</p> <p>国内では、プロサッカーチームとパートナー契約を結んだが現場研修などのインターンシップ等は実施していなかった。</p>	<p>平成 30 年度よりプロスポーツ現場での実習を開始する予定であったが、サポート体制が不備で実施できていない。</p> <p>さらに、海外での短期留学等の実施も検討している。</p>

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1.学生募集 入学試験の実施については、北海道専修学校各種学校協会の基準（申し合わせ事項）に基づいて実施している。 学校パンフレットについては、教員や在校生・卒業生のメッセージを多用すると共に、各学科のカリキュラムや学校生活、職業について、わかり易く伝える事に努めている。 学校説明会や個別相談を数多く実施し、来校者に対して本校の特色をよく理解して入学してもらえる様に注力している。 学校説明会では、在校生の協力によって、より学校生活を理解して貰える様、積極的に会話を行い来校者との距離を近づけている。 高校ガイダンスに積極的に参加し、本校の特色や業界分野をわかり易く伝える事に努めている。</p> <p>2.入学選考 入学選考は、学則および入学試験実施要領に基づき適正に実施している。選考は入試判定会議を実施し、公平に審査し決定している。</p> <p>3.学納金 3年間に必要な学納金や在学中に必要な教材等の費用も詳しく提示し、情報提供を行っている。</p>	<p>1.学生募集 近年は、高校生に関しては他校との競合が目立ち、また社会人受験者の落ち込みも目立った。今後は、より丁寧に本校の特徴をアピールして行くと共に、更に社会人に対して、わかり易く情報提供し、職業の魅力をしっかりと伝えていく事が重要である。 高校新卒者の受験生を更に増やす為に、保護者にもわかり易く資格の特性や学校を理解して貰える様、学校パンフレットとは別に、高校生向けリーフレットを制作し、配布していく。</p> <p>2.入学選考 社会人経験者ならびに高校新卒者が減少している。今まで以上に個人情報の取り扱いに留意し、高校との連携を深める必要があると考えている。</p> <p>3.学納金 教育ローンや奨学金制度の説明等、更にわかり易く情報提供していく事が必要と考えている。さらに教育訓練給付金制度など、使用できる公的な資金援助制度も導入していく。</p>

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園として、北海道歯科衛生士専門学校および北海道看護専門学校の開学以来、消費支出が増加しており、本校および北海道歯科衛生士専門学校の学生数が減少したことで、より財務基盤は不安定となっていることから、無駄な経費等を削減するなどの対策を講じている。</p>	<p>学園が保有する各学校の経費を削減すると同時に、本校および北海道歯科衛生士専門学校においては学生数（入学者数）を増加させることが急務である。また、学校会計基準の改正に伴う、会計処理及び計算書類の変更等に対応する必要がある。</p>

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、専修学校設置基準、ならびに、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律、柔道整復師に関する法律、及びあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師に係わる学校養成施設認定規則、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律施行規則に基づき教育活動を行っている。また、加盟している公益社団法人全国柔道整復学校協会等の倫理綱領に基づき、法令遵守の精神を教育に取り入れている。</p>	

<学校評価について>

項 目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	評価項目毎に自己点検・評価は行われ、自己評価委員会で取りまとめている。	学校全体で取り組む必要があり、自己評価委員会を設置し、実施体制を整えた上で評価を行うべきである。
2) 自己評価結果を公表しているか	評価項目ごとの自己点検・評価は行い自己評価委員会で取りまとめているが、まだ未公開である。	速やかに取りまとめて、ホームページ等で公開する必要がある。
3) 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	評価項目ごとの自己点検・評価は行われ、自己評価委員会で取りまとめているが、学校関係者評価の実施体制が未整備で、評価を行っていない。	速やかに学校関係者評価委員会を設置し、評価を行う必要がある。
4) 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価結果をホームページに未公開である。	速やかに評価を行い、ホームページ等で公開する必要がある。

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は地域医療の担い手を育成する教育機関であり、学校としても社会貢献・地域貢献に対する意識は高い。</p> <p>近年、スポーツ活動以外にも、健康をテーマにした無料公開講座、業の啓蒙活動へのボランティア参加、地域の清掃活動など、さまざまなボランティア活動に積極的に参加している。</p>	<p>町内会のお祭り（北海道神宮祭等）に、鍼灸治療体験ブースを出店するなど、鍼灸による健康維持および向上に貢献している。</p>

<社会貢献・地域貢献について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	卒業生および在校生を対象とした、セミナーを実施している。	地域の要請に効率よく対応するため、対象および募集方法、活動時間などの再検討が必要と思われる。
2) 国際交流に取り組んでいるか	平成医療学園によるベトナム研修および台湾鍼灸研修などの機会があるが、本校の学生はほとんど参加していない。	今後、開催内容等を告知して、海外研修を通じて国債交流に取り組んでいく必要がある。

<ボランティア活動について>

項目	現状・具体的な取組等	課題と解決方向
1) 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	各種スポーツ活動、地域活動に対するボランティア活動について、随時募集を行っている。	ボランティアを通じて何ができるのかを学生に教え込んでいく必要がある。